

日本人の行動について

日本人が、色々と経験してきたことを、伝え合っていくことは大切なことであると考えて、私の経験の中で、多少ともお役に立ちそうなことを、書き留めてみます。

国際化やグローバル化という言葉が良く使われる時代になりました。日本人にとって、グローバル化の持つ意味を良く考えて見る必要があります。私は、グローバル化とは、人間が無国籍化することではないと考えております。

環境問題との関連で、生物の多様性の大切さが叫ばれておりますが、人間の多様性も非常に大切なものです。世界には、多くの民族が、それぞれの言葉で話し、特色のある文化を形成しています。それは、百花繚乱のような輝きといえます。中でも、日本の文化は世界の貴重な宝であり、万葉集などは東洋の真珠の輝きを放つ文学です。

グローバル化の時代には、日本人らしい日本人が、世界の人々から尊敬されます。コミュニケーションのツールとして英語を話すことは大切ですが、もっと大事なことは、日本の文化、日本語を大切にすることです。もちろん、日本の文化には、沖縄の文化やアイヌの文化が含まれます。国際人になるためには、日本人自身が、日本人とはどんな人間かを知る必要があります。

日本人理解の一助として、アラビア人と日本人の行動の違いについて述べてみます。

私は海外で働いていた時に、何度か船で海釣りに行きました。釣りに行くのは、日本人とアラビア人で、沖合いの釣り場に行って、釣りをしている時までは、日本人とアラビア人の行動は同じようなものでした。

日本人とアラビア人に行動の違いが出るのは、帰り支度の時でした。遠くに迎えの船が見えると、アラビア人は帰り支度を始めます。そして、帰り支度が終わると、船の着くのを座ってじっと待っています。

これに対し、私を含め日本人は、船が近くに来るまで釣りを続けています。そして、いよいよ船が近くに来ると、日本人は急いで帰り支度をして、船に乗り込みます。

なぜ、日本人とアラビア人の行動に、このような大きな差が出るのか考えてみました。私のたどり着いた結論は、アラビアは異民族同士が征服と被征服の歴史を繰り返してきた陸続きの国であり、日本は被征服の経験がない島国であるということです。

被征服者は征服者に刃向かえば殺されます。被征服者は、じっと耐えて征服から逃れるための反攻の時を待ちます。アラビア人はこのような被征服の時代を乗り越えてきた人々で、生き延びるための生き方をしていると思います。現在のアラビアでは、流浪の民として生き延びてきたユダヤ人と、このユダヤ人によって流浪の民となっているパレスチナ人が命をたなく生活をしています。

これに対し、異民族に征服をされた事の無い日本人は、命を守る生き方を学んで来ませんでした。日本人が、ぎりぎりまで釣りをするのは、釣果を増やすための勤勉さと甘えの気持ちのように感じます。ある意味で、日本人は幸せな民族といえます。

アラビアで仕事をしているとき、職場にはパレスチナ人もおりました。良く働くパレスチナ人を勤務評価で褒めてあげても、彼らは十分に満足しません。彼らは控えめな態度で、言葉はいいから、昇給昇進をして欲しいといいます。彼らは、経済的な見返りを望んでいるのです。自分の身を守り家族の生活を守るためにお金が必要なのです。

国際化・グローバル化とは、考えや行動パターンが日本人と異なる人々と付き合うこととなります。日本人が、外国人に対して単純に「腹を割って話し合えば通じる。」と考えるのは、危険だと思います。日本人が腹を割れば、外国人はサンキューと言って、日本人のはらわたを食べる事態もありえます。

日本人は、生物の本能としての身を守る気持ちを忘れてはいけないと思います。

2012年5月1日
(有)中野情報技術研究所
中野 敬三 記